

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1192800074		
法人名	ヒューマンライフケア株式会社		
事業所名	ヒューマンライフケア人間グループホーム		
所在地	埼玉県入間市宮前町9-2		
自己評価作成日	平成27年12月3日	評価結果市町村受理日	平成28年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=1192800074-00&PrefCd=11&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地		
訪問調査日	平成27年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな住宅街で、隣には公園があります。穏やかにのんびり過ごす環境ができています。地域の方も親切で芋煮会の行事の際には良い席を用意して頂きました。隣が公園なので夕方は近所の小学生が、トイレを借りに来たり、地域に根差してきています。また、地域のボランティアでバンド演奏、カラオケ、アロマテラピー、三味線や季節に合った行事や外食等、ご入居者様が楽しく過ごして頂けるよう努めています。また、お一人お一人の出来ること出来ないことをよく理解し、ホームのお手伝いをお願いしながら自立支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

西武池袋線入間市駅より徒歩15分の閑静な住宅街に、昨年11月開所した2階建て2ユニットのグループホームである。事業所内は明るく、防犯、緊急設備が整っており、玄関や廊下の施錠はテンキー管理、消火器はむき出しではなく壁に内蔵されており、最新の設備となっている。各階に8名の入居者が利用しており、隣接の公園では自治会の行事が行われ、天気の良い日の散歩コースとなっている。入居者が行動の制限無く、ゆっくりとした時間を過ごされ、自分の居場所として落ち着いて過ごしている。開所して1年で職員の入れ替わりもあったが、自治会の入会や近隣住民の他、保育所との交流や多くのボランティアの参加があり、地域に根差してお一人おひとりの事を思いながらケアに取り組んでいる様子がうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りの時に、必ずグループホームの理念を唱和している。また、理念に基づいた介護をケアプランに取り組み実施に繋がっている。	法人の理念の他、グループホームの理念「笑顔あふれる寄り添う介護を目指します」「地域の人との交流を深め、喜びを感じられる介護を目指します」「その人らしさを大切にし、安心して暮らせる介護をめざします」に基づいた介護の実践が行われ、地域との交流も順調である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の会員として、地域の行事に参加している。また、職員もご近所の方と顔なじみになっている。運営推進会議に地域の方、ご利用者様の参加も徐々に増えている。	隣の公園で行われた「芋煮会」では、入居者の為にあらかじめ席を確保して頂き、餅つき大会では保育所から臼と杵を借りる等の配慮をいただいている。定期的に開催の運営推進会議にも地域の方に参加頂き、参加者も徐々に増え、入居の相談を受ける等、少しずつ認知度も上がって来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター研修や薬の飲み方の研修を当施設で行い地域の方が参加して頂きました。また、地域の希望もありAEDの設置をした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではご入居様の日頃の様子やホームでのインシデント、アクシデントの報告を行い、地域包括やご家族様の質問やご要望にお応えしている。	4月から開催の運営推進会議は、地域包括支援センター、民生委員、家族の参加が定着しており、行事の様子、予定等の報告をしている。質問や要望もあり、その1つとしてAED設置の要望があり、それを受け玄関に設置をした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険上不明な点があれば、高齢、福祉課に連絡をとっている。また、事故発生時は速やかに報告を行いアドバイスを頂いている。	分からない事があれば介護保険課に聞き、ホーム内での事故報告は速やかに行っている。事故報告は、転倒等で病院に受診したら行政に報告をするという基準を設けて行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスを行い、身体拘束を行わない介護を共通認識をしている。	玄関、廊下、外に通じる出入り口はいつも施錠している。入居者が一人で一歩外に出るだけで転倒等の危険と隣り合わせとなるので、外出の際は必ず職員が付き添っている。身体拘束の研修に参加し、他の職員に周知し、どんな事が身体拘束にあたるのかという知識を得て、その都度注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	10月に虐待防止の研修を行った。また、職員の言動行動に注意を払い、間違いがあれば修正している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後研修の実施を予定しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	予め契約に有する時間等説明し、ゆっくり丁寧に対応している。不明な点はないか、確認しながら行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議だけでなく、ホーム側からもご家族様に連絡を取りコミュニケーションを図るようにしている。	運営推進会議だけではなく、電話や面会時の際に要望も聞いている。入居者からも日々のかかわりの中で思いを汲み取る努力をしている。意見等があれば、会議時に話し合いをしたり、本社へ報告をし意見が反映出来るように対応をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	予め年度計画や個別の目標設定の中で、職員の意見を聞いている。また、ミーティングを行い職員主導で運営できるよう心がけている。	管理者は職員が何をしたいのか、目標を設定し達成に向け、ある程度の仕事を任せている。目標は4月頃に設定し、翌年3月に振り返りの場を設けている。毎月開催のフロア会議では活発な意見交換が行われ、意見が出しやすい環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の出勤状況、勤務態度、実績を把握し上長に報告している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内のe-ランニングや研修を行っている。また、経験の浅い職員には、実務記録を書いてもらいスタッフからアドバイスや励ましのコメントを書いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入間市内のグループホームの代表が集まり、話し合いの場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お一人お一人の人柄を理解することに努め、表情や言動からも気持ちを察している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際ご家族様のニーズを把握し、改善できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にアセスメントを行い、ご入居様が望む生活をケアプランに活かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	馴染みの関係を構築し、屈託なく話し合える関係を築くようにしている。また、日頃より職員からご入居様に感謝の言葉を伝えている場面がよく見られる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子をご家族様にもお話しし、家族の関わり方をアドバイスしている。また、ご入居様とご家族様が共に過ごす時間持てるよう、面会や外出の時間も調整している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方の面会やご自身が行事にしていた外出を継続して行って頂いている。	馴染みの人等の確認は入居時に本人や家族より情報を得て、面会が自由に出来るように支援をしている。また、知人の面会希望はあらかじめ家族や入居者の確認を取ってから対応しており、安心して頂いている。家族の協力を得て、外出の機会を増やし、定期的にお墓参りをしている方や美容院に出掛ける方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者様の性格や好み、相性を考えながら席を用意している。コミュニケーションが図れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方も、必要時体調の変化がないか電話を入れている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で、改めて知ることが度々あります。入居者が笑顔で過ごせるよう、意向に合わせるよう調整している。	個人の好きな事、出来る事、出来ない事を日々接している中で把握し、何がしたいのかを見極めている。介護者本位ではなく、無理強いせず、自然に笑顔が出るような支援が出来るよう、努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からの情報やご家族様からの情報、また、地域包括等利用して情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中で、ご自身の生活パターンや出来る事出来ない事の把握に努めている。また、職員間でも適宜情報の交換を行い、ご自身の自立支援に活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアの振り返りを行い、適切なケアプランが実施できたか確認している。カンファレンスを行い現状に即したケアプランの作成に努めている。	3ヶ月毎にケアプランが合っているかどうかの確認を行っている。課題があれば話し合い、居室担当者を中心に達成可能な目標となっているかを確認している。家族を含めた会議の開催は予定組みが困難で、見直されたプランは家族に説明、確認を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やその他の生活に関わる記録を、漏れの無いように注意しながら記入している。気が付いたことや改善が必要なことはフォローミーティングを行い介護実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度職員と相談して対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の行事参加、地域のボランティアやパンやヤクルトの販売によるお買いものを楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	急変時は主治医や連携病院の受診が速やかに出来ており、適切な医療の提供が出来ている。	入居前からのかかりつけ医の受診は希望を聞き対応しており、現在は家族対応で4名の方が受診している。他の方は協力医療機関の往診による定期受診を行っている。急変時等の緊急受診の対応は看護師を中心に適宜行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康チェックを行い、ご入居様の変化があれば主治医に報告している。介護職員に必要なケアの説明や指導をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカーや看護師、リハビリスタッフとカンファレンスやアセスメントを行い、その方の即した対応をしている。必要時ナースサマリーを作成し病院にお渡ししている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時ご家族様に説明はしているが、まだ実施には至っていない。	入居時に重度化対応及び看取りケアに関する指針を重要事項説明書で説明している。協力医との連携が確保出来ており、職員は重度化や終末期の理解を得ており、看護師も在籍している。本人、家族の意向を尊重し、ホームの体制等、対応の可否を検討した上で行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの掲示を行っている。適宜報告連絡は出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を年2回行っている。入居様も参加して頂いている。	8月に職員と入居者が参加の避難訓練を開催した。1階の台所より出火を想定し、火元から離れた部屋で煙から逃れるための避難方法を行った。来年の2月は夜間想定避難訓練を予定している。事務所奥の物置には非常用の食料が3日分蓄えられている。	災害は火災のみではなく地震、水害等、いつ起こるか分からないことから、職員が少ない夜間等は地域の協力が不可欠と考えられる。地域住民参加の防災訓練の実施が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人注意しながら対応している。	トイレへの誘導等の声掛けには気を付けている。オムツとは呼ばず「アイテム」と言葉を変えている。また、慣れ合いの言葉使いにならないよう注意している。トイレや入浴介助を行う時は本人の希望を聞いた上で同性介護を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けを心がけ、ご本人の意志を尊重している。ご本人の気持ちに寄り添った介護を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務中心にならないよう、注意しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の好みや趣味を尊重し、機能性だけを優先しない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、調理、片づけ等出来る方には、おしゃべりしながらお手伝いをお願いしている。また、外食や手作りおやつで食事に変化をつけるようにしている。	食事の準備や片づけが出来る方にはやっけて頂いているが、決して無理強いはせず義務的にならないようにしている。調理は職員が行い、出来る方にはお手伝いをお願いし、米を研いでくれる男性入居者もいる。季節の「ちらし寿司」や「赤飯」等を作る時もある。たまに行く外食も楽しみの一つである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	宅配業者より食材が届き、職員が調理をしている。個々の体格や性別、年齢、嚥下状況に応じて量や形態を調整している。一人一人水分摂取量を確認し、少ない方には声掛けを行っている。また、適宜ジュース等甘い飲み物をお出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科が月に2回訪問している。歯磨きがうまく出来ない方には、職員が磨き直しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄状況を把握し、適切なオムツやパットを使用する様にしている。必要な方には見守り、声掛けにてトイレ誘導を行い、気持ちよく過ごしていただけるよう配慮している。	個々の排泄パターンを把握し、その方に合った声掛けや誘導を行っている。入居者のほとんどが介助を要しており、リハビリパンツ、パット等、その方にあった組み合わせで使用しているが、使用数が多くならないよう、失禁前の誘導を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の間隔を把握し、水分の摂取を促したり、腹部のマッサージを行っている。必要時主治医に相談し頑固な便秘な方には内服による調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回は入浴をして頂いている。夏場汗をかく時期はご本人の希望により回数を増やす場合もある。入浴を嫌がる方には、対応の工夫を行い入浴して頂けるよう努めている。	1階にリフト浴槽を配備しており、身体レベルが低下しても安心して入浴出来るようになっている。基本的には曜日を決めており、入浴拒否の方も対応を工夫して週2回は入浴して頂いている。支援方法はフロア毎に任せているが、職員同士で話し合い、より快適な入浴となるよう、会議で検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る時間はご本人の意志に任せている。ゆっくり休んで頂けるよう、おふとんの調整を行っている。なかなか寝付けない場合は、暖かい飲み物を提供したり、おしゃべりをしたりして様子を見ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用を理解し、確実に内服して頂けるよう工夫をしている。また、体調の変化に応じ看護師に報告し、適切な与薬に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の得意なことや出来ることを参考にして、ホームでの役割を果たして頂いている。習字やお料理、大工仕事等。また、コーヒー好きな方もおりドリッップコーヒーを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日はお散歩や隣の公園で日向ぼっこしながらおしゃべりを楽しんでいる。ご家族様の希望により外出をされている。	日常的に近くへ散歩に出掛け、時にはドライブで花見や川、山に出掛けている。家族の協力を得て、外泊や親戚の集まりに参加する等の支援や希望があれば買い物支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身のお金は金庫に管理しており、必要時お出ししている。パンの販売やヤクルトの販売の際はご自身で精算をして頂くよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの電話で、ご希望により取り次いでいる。手紙のやり取りについては、ご自分から手紙を書きたいという要望は聞かれないが、今回クリスマスカードを書いて頂くことを検討中です。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事の写真を貼っている。時期に合った飾りを行い季節感を感じて頂けるよう工夫をしている。清掃を行い清潔な環境を心がけている。	各フロアの廊下にソファを設置しており、落ち着いて話せる空間となっている。フロアの一面は窓ガラス張りで日ざしが良くとても明るい。対面式キッチンにより、台所においても入居者の様子が良くわかるようになっており、2つ並んだ洗面台があり、食事後の歯磨きがスムーズに行える動線となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人お一人の人柄や日頃の様子をみて、席を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の写真やテレビを設置して頂き、ご自身のお部屋としてゆっくりすごして頂けるよう支援している。	電動ベッド、防火カーテン、エアコン、クローゼット、チェストが備え付いており、他に個々の好きな物を持ち込んで頂いている。テレビやソファ等でくつろげる空間となるよう支援しているが、中には危険の無いよう、物を極力置かない部屋もあり、個別に対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	整理整頓を心がけ、安心して過ごして頂けるよう支援している。また、ご自身で出来る清掃や片づけはお手伝いをお願いしている。		

目標達成計画

作成日：平成 27 年 12 月 30 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年2回の消防訓練を行っているが、地域の方々の協力依頼がまだできていない。	①地域の方の協力を得ながら、年2回防災訓練を安全に行うことができる。 ②消防士の指導を受けながら、消火器の使用方法がわかる。 ③消防、災害に備えた行動が取れる。	①防災訓練を地域住民と共に年2回行う。 ②消防士の指導を受けながら、消火訓練、誘導を安全に行う。 ③日中と夜間の火災、災害時の対応ができる。	3ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。